

1. 単元名(主題) 「研究テーマを決めよう(後編)」

～学問分野別の対話を通じた興味・関心の共有と協働学習の組織化～

2. 本時の主題の概要および設定理由

「SS I (総合的な探究の時間)」では、生徒が自らの興味・関心や問題意識を出発点として社会や学術の諸問題と結びつけ、内発的な動機に基づいた「問い」を立てて協働的に解決する力を養うことを重視している。

前時においては、生徒各自の興味・関心に基づいて学問分野別の教室へ移動し、仮テーマの設定および仮チームの編成を行った。

本時では、前時の編成状況を踏まえたチームの最終調整および確定を行う。さらに、決定したチームにおいて協働的な探究を円滑に進めるための前段階として、各自が『前期プレ探究ノート』を用いた個人ワークに取り組む。その際、生成AIを課題研究の「メンター」として位置づけ、具体的なテーマそのものを提案させるのではなく、生徒自身の思考を広げ深めるための客観的な「問いかけ」を生成させる。AIから提示された問いかけに対して自己熟考を挟むことで、初期値に思考が引っ張られる「アンカリング」を回避し、主体的かつ多角的な視点を獲得させる。

最終的に、個人ワークで得られた独自の気づきや視点をチーム内で共有・ディスカッションし、チームとして取り組む具体的な研究テーマを協働的に設定する。このプロセスを通じて、生徒が主体性を持って探究活動に参画し、今後の「プレ研究計画書兼報告書」の作成へスムーズに移行するための強固な基盤を構築するため、本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **協働体制の確立:** 自身の興味・関心や探究したい仮テーマを踏まえ、適切にコミュニケーションを取りながら探究チーム(1チーム3～5名程度)の最終調整および確定を行うことができる。
- 2) **生成AIを活用した思考の深耕:** 生成AIから提示された客観的な「問いかけ」に対し、自己の関心と照らし合わせて深く思考することで、漠然としていた仮テーマを具体化・多角化させることができる。
- 3) **チームテーマの合意形成:** 個人ワークで得られた独自の視点や気づきをチーム内で共有し、多様な視点を尊重しながら、チームとして取り組む当面の「研究テーマ」を協働的に設定できる。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SS I 総探-第03回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 生徒用ワークシート: 『前期プレ探究ノート』(Google Classroomにて配信済み)
- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』
- 共有用デジタルファイル: 『前期プレ探究チーム決めスプレッドシート』(各教室用シート)
- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』

5. 本時の展開(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
2分	(1) 出席確認を行う。 学問分野ごとに指定された教室に入室し、出席確認を受ける。座席は自由とする。	- ホームルーム別の出席確認を効率的に行う。 - 座席は自由とするが、出欠の不一致がないよう名票と照合する。
3分	(2) 本時の目標を確認する。 「研究テーマの決定」であることを把握する。	『SSI 総探-第03回スライド』を提示し、本時の流れと最終ゴールを明確に示して見通しを持たせる。
10分	(3) 本時の活動および全体の流れについて説明を受ける。 チーム編成完了後の探究のプロセス(研究計画から計画書へのまとめ)や、本日使用するワークシート、生成AIの活用方法についての説明を理解する。	- 探究のプロセス(問いを立て、リサーチクエスト・仮説を導出し、検証する流れ)と、最終成果物である「プレ研究計画書兼報告書」の概要を提示し、本時のワークの位置づけを理解させる。 - 個人で取り組む『前期プレ探究ノート』の開き方(Google Classroom経由)を指示する。 - 研究テーマ設定のポイント(具体的であること、社会・学術の話題と結びついていること等)を説明する。前回のワークシートや『学習の手引き』を参照するとスムーズに書ける旨を補足する。 - 他教室の状況を見て移動を希望する生徒がいる場合は、担当教員への申し出を必須とし、確認後に移動を認める。 - 教員は移動が生じた際、Slack等の教員間連絡ツールを用いて速やかに移動元の組・氏名・移動先を共有し、全体の所在を把握する。
15分	(4) チーム編成の最終調整を行う。 現在の仮チームのままでよいか、他教室を含めた別のチームへ異動するかを検討・確定させる。	- 教員は『前期プレ探究チーム決めスプレッドシート』をホワイトボード等に投影し、全体の編成状況を可視化する。 1チーム3～5名(2名も可)の人数制限を守るよう指導する。 - 別の教室への異動を希望する生徒については、担当教員への申し出を必須とし、教室間の連携(教員間連絡ツールの活用等)を確実にを行う。 - チームが確定した生徒から報告を受け、教員はスプレッドシートの所定のセル(緑色)に組番号を入力し、ステータスを更新する。
5分	(5) 個人ワーク①:仮テーマの言語化と掘り下げを行う。 確定したチームの仮テーマをもとに、『前期プレ探究ノート』のワーク①(ステップ1～4)に取り組む。	- チームの確定が済んだ生徒から速やかにワークへ着手させる。 - 仮テーマから連想されるキーワードの列挙(Wikiサーフィンの活用も可)、興味を持った理由の言語化、検討したい3つの視点の設定を、生成AIを使わずに自力で行うよう指導する。 - 教員は机間巡視を行い、仮テーマが漠然としている生徒に対し、具体的な問いかけを行いながら言語化を支援する。遅れている生徒への個別フォローも行う。
5分	(6) 個人ワーク②・③:生成AIを活用した思考の拡張と自己熟考を行う。 確定したチームの仮テーマをもとに、『前期プレ探究ノート』のワーク①(ステップ1～4)に取り組む。	- スライドに示されたプロンプトを正確に入力させる。 - 具体的なテーマを提案させるのではなく、思考を深めるための「問いかけ」を4問提示させる意図(アンカリングの回避)を説明する。 - AIから提示された問いかけに対し、自身の直感で惹かれたものを1つ選び、「今の自分ならどう答えるか」を自身の言葉でワークシートに記録させる。

5分	(7) 協働ワーク:チームディスカッションと研究テーマの設定を行う。 個人ワークの結果をチーム内で共有し、ディスカッションを経てチームとしての研究テーマを設定する。	● メンバーそれぞれの「惹かれた問いかけ」や独自の視点を発表し合い、視点のズレや重なりを楽しみながら議論するよう促す。 ● 単なる調べ学習にとどまらない、何に焦点を当てるかが明確な「一つの研究テーマ」へと集約させる。ただし、テーマは今後の探究の進捗に応じて更新可能であることも伝え、現時点での当面の方向性を決定させる。
5分	(8) 次回以降の予定を確認する。 次回までの課題や、主体的な調査活動についての案内を理解する。	● 次回授業までに、個人ワークの部分(プレ探究ノート(1))を確実に完了させ、研究に必要な情報を主体的に収集しておくことが望ましいと指導する。